若年乳がんの当事者の声から始まる国際会議。YWBCH 2026 が大切にしたい「研究の先にある人生」。

若年乳がんは、単なる一つの病気ではありません。

診断を受けたその日から、学業、仕事、結婚、妊娠・出産、子育て、そして将来への希望まで、人生のさまざまな場面に影響を及ぼす可能性があります。

私たちは日々、臨床研究を通じて若年乳がんと向き合っています。しかし、その活動が本当に当事者のためになっているのかを考えるとき、いつも立ち返るべき原点があります。

それは、**「患者の立場におかれた一人ひとりの女性の人生」**です。

2026 年 11 月 14 日・15 日に東京で開催する国際会議「YWBCH 2026（Young Women's Breast Cancer Conference 2026）」では、国内外の医療従事者、研究者、患者支援団体、企業関係者などが集まり、若年乳がんに関する最新の知見や課題について議論します。

一般的に、学術集会のプログラムでは、最先端の研究成果が報告され、専門的な議論が行われます。

しかし私たちは、今回あえて別の形を選びました。

なぜ、最初に患者経験者に登壇していただくのか。

YWBCH 2026 の開幕セッションでは、若年で乳癌を経験した当事者にご登壇いただきます。

研究発表の前に。専門家による講演の前に。

まず、一人の女性に若年乳がんと向き合ってきた経験を共有していただきます。

それは決して感動的な演出のためではありません。

研究も、医療も、そして患者支援活動も、その先には必ず当事者の人生があります。

どれほど優れた研究成果であっても、どれほど革新的な治療法であっても、その目的は、予期せず当事者となった女性の人生をより良くすることにあります。

だからこそ私たちは、会議に参加するすべての人に、その原点を共有していただきたいと考えました。



当事者の声を聞き、その姿を心に留めたうえで各セッションに臨む。

そうすることで、一つひとつの研究や活動が持つ意味を、より深く捉えることができると考えています。

若年乳がんだからこそ見えてくる課題

若年で乳がんと診断された女性は、人生のさまざまな転機の中で治療と向き合うことになります。

キャリア形成の途中かもしれません。

結婚や妊娠を考えている時期かもしれません。

幼い子どもを育てている最中かもしれません。

だからこそ若年乳がんには、発がんの原因の解明、早期発見の方法や、最適な治療法といった医学的な課題だけではなく、妊孕性、就労、育児、心理的支援、社会的支援など、多くの課題が存在します。

YWBCH 2026 では、そうしたテーマについて国内外の専門家や患者支援関係者が知見を共有し、今後の医療や支援を改善するために必要な研究や活動について議論します。

研究のための会議ではなく、当事者のための会議へ

YWBCH 2026 は、若年乳がんに関わる多様な立場の人々が集う国際会議です。

しかし私たちが目指しているのは、研究成果を発表する場だけではありません。

当事者の経験を出発点として、研究、診療、支援、啓発活動を改めて見つめ直す場です。

「若年乳がんの当事者の声から始まる国際学会」

この挑戦に込めた思いが、一人でも多くの方に届くことを願っています。

■ YWBCH 2026 開催概要

会議名
YWBCH 2026（the 3rd International Conference on Young Women’s Breast Cancer and Health）

開催日
2026 年 11 月 14 日(土)・15 日(日)

会場
日野原ホール（東京都中央区）

プログラム 国内外の専門家による講演、患者支援セッション、一般演題アワードセッション ほか

詳細はこちら
https://procomu.jp/ywbch2026/
プログラムはこちら
https://procomu.jp/ywbch2026/scientific-program.html

■ 本件に関するお問い合わせ
一般社団法人 JBCRG
Email: ywbch2026@jbcrg.jp
TEL: 03-6264-8873